

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	1. ラオスにおいて障害者の安定収入向上を目指し、障害者指導員による持続可能な技術移転を促進する。 ・ 障害当事者指導員候補生の給料が平均130ドル以上である。 ・ 障害当事者指導員候補生達により、会計管理が行われている。 2. ラオス社会、とりわけラオス企業に向けて障害者就労の理解・啓蒙を広め、障害者就労のサポート企業を増やす。 ・ 現在、ラオス国内外30社以上と提携することが出来ており、障害者就労を促進するためのサポート企業数は順調に増えている。
(2) 事業内容	(ア) 技能訓練指導員養成研修 ①車椅子製造・修理・販売、福祉リハビリ機器製造指導員養成研修 ・ 2014年8月8日～11日 日本人専門家 対象4人 日本人専門家より、性能の高い車椅子の修理とメンテナンス方法の指導、及び効果的な販売方法、販路拡大のためのノウハウ講習などが行われた。 ②ベーカリー指導員養成研修 ・ 2014年8月20日～27日 日本人専門家 対象6人 日本人専門家により、既存の商品の作業確認、品質管理方法指導、新しいレシピの提案等が行われ、数種の試作品を作った。 ③美容研修 ・ 2014年8月14日～18日 日本人専門家 対象5人 日本人美容専門家によるカット、カラー、縮毛矯正を中心とする技術理論講義、相モデルでの実践、専門家の施術の見学、実際の顧客に対する実践指導等が行われた。ラオス国立医療リハビリテーションセンターのろう学校生徒たちも研修に参加した。 ・ 2014年11月13日～21日 日本人専門家 対象5人 日本人美容専門家によるカット、カラー、縮毛矯正を中心とする技術理論講義、相モデルでの実践、専門家の施術の見学、実際の顧客をモデルにした実践指導等が行われた。 ④IT印刷研修 ・ 2014年8月20日～27日 日本人専門家 対象4人 日本人専門家による、名刺作りを中心とする印刷物の作成、編集作業の指導が行われた。 (イ) 技能訓練指導員へのOJTによる仮想就労の場を提供しビジネス訓練を常時行う ・ 日常的に当会技能訓練ワークショップにて、実際のビジネスとして、訓練を行っている。 (ウ) タウンミーティングの実施 ・ 2014年8月7日、ベーカリーワークショップのある村の村役場で、村長をはじめ、関係者と事業の説明、クッキーの試食、障害者就労の可能性や協力関係についての話し合いを持った。 ・ 2014年9月17日、美容ワークショップのある村の村役場で、村長をはじめ、関係者たちと障害者就労、ワークショップの運営に

	ついでの話し合いを持った。 ・ 2014 年 12 月 11 日、技能研修ワークショップ所在地近隣の住民を呼びタウンミーティングを開催し、障害者就労の意義と障害者を持った人たちと共に暮らすインクルーシブ社会の構築の重要性を議題に意見交換会を行った。 (エ) ビエンチャンをベースとしている国内外企業・団体に向けた障害者就労促進や啓発ミーティングの実施、プレゼンテーションによる当会前事業の成果・障害を持つ研修員の技術力の高さをアピールし、企業内の CSR 事業に組み入れる交渉 ・ 定期的に提携する企業または新規民間国内外企業を訪問し、当会の事業を説明、特にクッキー製造販売、美容施術提供、IT 研修の一環である印刷技術研修「名刺作成事業」を通じて、企業との提携を模索し、当会技能研修に参加している障害を持つ研修員の技術力の高さ、生製品の質の高さを企業や民間団体に向けて積極的にアピールを行っている。ラオス・ビエンチャンをベースとするラオス国内外民間企業も CSR 事業への参入、協力の意義は十分に浸透していて、当会が 3 年に渡って積み上げてきた障害者の高い技術力や生み出された成果品である高品質な製品を提供することにより、企業は興味を示し、連携を承諾するケースが随所に表れている。更に提携企業の開拓を日々行っている段階である。 (オ) 技能訓練指導員の本邦研修 2014 年 10 月 7 日～20 日 ①ベーカリー研修 研修生 2 名 研修先：ルブラン（洋菓子店）、恵比寿お菓子屋「ぱれっと」（障害者の働く場）、スワンベーカリー、（大手宅配便会社の障害者就労特例子会社）、大松ベーカリー、パティスリー磯崎、東京ラスク等 研修を通じて、日本の質の高いクッキー生産現場、作業の効率化、販路拡大の方法、販売技能、衛生管理、接客態度、商品開発、商品ディスプレイ方法などを学んだ。 ②美容研修 研修生 2 名 研修先：代官山 VEGA 美容室、山野美容学校、フェイシャルエステワミレス、高岡美容室、mailo（美容室）、COME（美容室）等 美容室、美容学校で実技の勉強をし、就労意識を学び、美容室を訪問し、衛生管理、接客態度、物の配置、空間の使い方などを学んだ。
(3) 達成された効果	(ア) 高い技能の障害者指導員が育成される ①ベーカリー部門 ・ 顧客への製品満足度アンケートの結果（5 段階満足度調査）、ほぼ 100% の顧客から品質、製品管理方法、パッケージデザインや値段等、評価 5 を得た。障害者が作る慈善事業の製品という今までの障害者就労の在り方から「品質が高く尚且つ他の製品に劣らず正當に競合し評価を得た美味しいクッキー」という評価を得ている。ここ数年で主なターゲットであるビエンチャン市内の顧客にもその認識がしっかりと根付いてきた。障害者が作ったクッキーだから購買するという慈善事業ベースの顧客動向から「美味しいから購買する」

という評価に基づいた成果は障害者によるビジネスの成功例として内外から評価を受けており、当会の障害研修生も励まされている。

- ・ラオスで事業を展開する民間のカフェ数件より、カフェ独自の商品を共同開発してほしいとのビジネス依頼を受け、障害当事者指導員と共に商品を開発中である。育成されている指導員たちの技術の高さが認められた結果である。

- ・本邦研修に参加した若い一人の障害当事者指導員候補生は、今期プロジェクト開始時には性格的にとても内気であり指導員候補生としての自信がまだ持てない状況であった。本邦研修に参加する研修生選考の際、日本人ベーカーリー専門家とも話しあった結果、若いながらも技能や資質に関しては申し分なく将来性は大きいあるとのことで本邦研修参加者としてこの指導員候補生が選ばれた。本邦研修ではラオスと日本の環境の違いからか、研修内容が時に高度で理解を超え、積極的に学ぶというよりは戸惑っているという印象を受けた。しかし、帰国後、指導員として成長を見せ、クッキー製造作業を率先して行い、リーダーシップを随所に発揮し、今では難しい作業も中心的に行っている。本邦研修の成果が効果的に出た結果となった。また本指導員候補生は日本で見学と実習を重ねたラスク試作品作りを中心となって担っている。以前は自由な発想で新しいレシピに挑戦することがなかなかできなかったが、今回はお菓子というより、おつまみに近い、ラオス人が好みそうな出汁の味が効いたものや、濃い味で辛いものを作って、試行錯誤していた。このように独自のアイデアを駆使し商品化に向けて、指導員候補生全員が積極的に事業をけん引していこうという意志が醸成されつつある。

② I T印刷部門

- ・指導員候補生は技術的にはまだまだ改善の余地はあるが、指導員として新研修生が技能研修ワークショップに参加する際は指導員としてP C基礎操作等を指導している。当会事業の裨益者となる障害当事者はほとんどが初等教育あるいは全く教育を受けてこなかった研修生であり、研修生たちはパソコン操作に必要なアイコンなどを理解するための英語力もない。パソコン自体に触れたことがないような研修生である。しかし当会プロジェクトのI T印刷部門指導員候補生の受けてきた教育レベルも同様であり、研修段階を経て、丁寧に育成され、日々の実務の中でパソコンを使うことで、着実に技術は上がってきた。その彼等が直接のロールモデルとなることにより新規研修生のモチベーションが高まっている。

③車椅子製造・修理・販売、福祉リハビリ機器製造指導員養成研修

日本人専門家より、性能の高い車椅子の修理とメンテナンス方法の指導、及び効果的な販売方法、販路拡大のためのノウハウ講習などが行われたが、ラオスは現在上記製品を求める顧客層が高齢者となり、ラオス社会の高齢化が当会車椅子及び福祉リハビリ機器の新たな顧客層として広がりを見せている。大家族主義のラオスにとって家族の中には必ず数名の高齢者がおり、特に富裕層のラオス人家庭で在宅による高齢者ケアを行っている家族が増えており、車椅子が必要となってくるケースが多々ある。実際、数台車椅子の受注があ

った。また長期滞在の外国人の中でも高齢者も多く車椅子や歩行器のような福祉機器の需要が増えてきた。当会は障害者がメンテナンスを担当しているワークショップとして口コミで少しずつ顧客が増えており、今後もニーズのある高齢者を抱える家庭からいかに需要を拡大していくか販路拡大というセールスを中心としたビジネス研修・広報が重要となっており指導員候補生が販売戦略を積極的に考えている。

④美容部門

・ 当会美容部門で指導員候補生がろう者であることから、ラオス国立医療リハビリテーションセンター内のろう学校より、学校内での職業訓練の実施が要請された。週1回、当会美容研修指導員候補生が講師となり、生徒たちに美容技術を教えている。ラオスではろう者の社会自立に向けた就労支援が少なく、ろう学校卒業生の進路に関し全く就労のロールモデルが構築できていないという困難な状況がろう学校側から当会に説明された。在校の聴覚障害学生を当会の美容技能研修の新規研修生として受け入れる連携が始まり、当会美容技能研修の指導員候補生にとってはまさに指導のOJT経験を積める良い機会となっている。ろう学校に向けて当会指導員候補生の指導の満足度に関するアンケート調査を実施し、当会指導員候補生の指導技能は概ね良好という回答であったが、改善点もあり、その結果を基に当会の指導員養成研修の内容を改善し、指導力向上、技術力向上につなげている。ろう学校であるため、手話によるコミュニケーションの問題や、当会指導員候補生自身の指導方法も再度見直し、指導員としての技能を向上させるため、技術内容の更なる把握と指導員としての自覚を促すようリーダーシップの育成も意識しながら指導を徹底している。

(イ) 企業への支援策提言(CSRの促進)が出来るようになる

・ タイ全土でカフェを展開している大手石油会社と提携が決まり、ラオスにある当カフェにクッキーを卸すこととなった。当会として企業への支援策提言(CSR促進)の一環として障害者支援の重要性を説明し、良く理解してもらい、販売額の100%を還元してもらえる契約を結ぶことができた。

・ ラオスの小規模運送会社に障害者就労の必要を説明し、社員の名刺印刷を受注することができ、継続的な契約を結ぶことができた。

(ウ) 事業運営の完全自立が達成される

・ ベーカリー部門は8月1日より、6か月間で、パック換算で16,000袋の販売実績があり、経営的にも黒字であり、日々の製造管理、販売管理、会計事務もラオス人指導員候補生及びスタッフたちが業務を分担して行っている。指導員候補生4名を含めた6人態勢で常時業務を運営している。

・ 美容部門も事業の完全自立が達成されるために顧客管理や利益管理等の経営部門の黒字化に向けて指導員候補生が率先して事業をけん引している。

	・本邦研修参加者は、日本の受け入れ先の製菓現場で学んだ動線を意識した作業スペースの確保を参考にして、帰国後、ワークショップの作業台や器具の配置を変更した。作業効率化を意識することができるようになり、製菓技術の向上だけではなく、経営全体にも目を向けるようになった。 (エ) サポート企業が増加する 現在、提携している企業及び小売業者、飲食店等は30以上である。当会ワークショップから積極的に企業にアプローチをするが、12月、1月あたりから、当会の商品を口にした経営者や担当者から連絡があり、提携に至るケースが増えているため順調にサポート企業数は増加している。
(4) 今後の見通し	・専門家による集中的な研修を計画通り実施する。 車椅子製造・修理・販売研修1回、ベーカリー研修1回、美容研修2回、IT研修1回。 ・引き続き障害当事者指導員養成を行い、指導員達が後進の障害当事者に効果的に技術移転が出来るよう指導員のリーダーシップも育成しながら質の高い指導員を養成したい。 ・ラオス地方都市では、依然多くの障害者が意欲はあるものの、就労機会に恵まれない状況にいる。地方在住の障害当事者に技能訓練機会を提供するために、積極的に地方都市とのネットワークを構築し、研修生及び継続的に働ける指導員候補を募る。 ・美容、ベーカリーワークショップのある地域で、村役場と連携し、近隣の村の住民を集めたタウンミーティングを実施する。 ・更に顧客からの直接のフィードバックを得るためにも定期的にアンケート調査を実施し、より幅広い関係者に対して、記入式のアンケートを行い、ラオス社会に根差した障害者の就労ロールモデルを育成していきたい。